

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年 3月 15日

事業所名 多機能型事業所シンフォニー

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		天井の高さを活かし、飾りの立体配置(見上げる飾りなど)を心がけている。	スペースを活かした活動や心地よさを引き続き大事にしていきたい。
	2 職員の配置数は適切である	○		4月より正看護師の2名配置を予定。	より安心して医療ケアケースに対応できるようにしていきます。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		ウッドデッキにスロープを付けた。	設計時より配慮しているがより配慮できるよう工夫を重ねたい。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		振り返りや話し合いなどでできる限り時間を確保している。	個人の力量や経験の違いに左右されないよう話し合いはできる限り全員が参加をし、それぞれの立場で発言できるよう心がけている。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		昨年の秋祭りの際も保護者向けアンケートを実施した。	アンケートや評価表も活用しているが、送迎時や連絡帳などでも随時意向確認に努めている。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		今年はシンフォニーのホームページに公開します。	昨年シンフォニーのホームページを作りました。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	社外、総合コーディネーターからのアドバイスは積極的に受け入れている。	正式な第三者評価は受け入れていないが、今後の福祉政策の流れに合わせ導入を検討します。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		月1回(12回シリーズ)の施設内研修を実施。	外部講師にて施設内研修を実施。施設外研修も希望する研修参加について適宜判断している。
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		頻繁にコミュニケーションをとることでニーズや課題の把握に努めている。	客観的な分析になるよう日々の振り返りや話し合いを重視している。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		聞き取り時の専用シートを活用している。	アセスメント時も前回の計画書やアセスメント結果を参照しながら進めている。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		立案に対して全員で話し合いを実施。	プログラムの案に関してはだれにも発言権があり、アイデアを出し合っている。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		参加児童の個性やメンバーの組み合わせにも配慮。	参加児童一人ひとりにあった活動やプログラムを工夫している。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		平日は短い時間でも充実して過ごせるよう心がけている。	休日や長期休業中は普段できない活動(外出や調理など)を取り入れるようしている。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		集団活動が難しい児童が多いが、参加した実感が持てるよう工夫している。	いっしょにできた達成感を味わえるよう役割を担ってもらったり、少しでも活動に参加できるようやり方を考えている。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		前日の振り返りといっしょに行うことで比較や積み重ねができるようしている。	昨日より今日がよりよくなるよう実感が持ちやすい。支援内容も話し合いでより深められる。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		記録をもとに翌日に時間を十分にとっている。	直後のフレッシュさは失われるが話し合う時間の確保を重視している。直後は記録もきちんと行ことを重視。もちろん必要に応じて直後に話し合いをすることもある。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		記録をもとに話し合いをすることが習慣化している。	話し合いの中で記録の記述の疑問点等が検証され、改善につなげていると思う。
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		児発管を中心に行っているが、日常の話し合いの情報を重視している。	児発管も支援の実際を見聞きし、話し合いの中心となることで必要性の判断の助けになっている。
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	○		そのままをなぞることはできないが、大きく外れることなく支援を行っている。	重度の利用者が多いので、利用者の個性に合わせた支援を行っていきます。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児発管が中心だが、必要に応じて直接処遇に当たっている職員が参加することも。	コロナの影響でウェブ上の会議になるなどしていたが、直接話し合う場は大事にしていきたい。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		送迎時は2人以上の職員で行い、先生からしっかりと聞き取りができるよう配慮している。	聞き取りの職員と、見守りの職員で役割分担をしっかりと分けている。必要に応じて直接電話で聞くこともある。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		主治医との連絡体制だけでなく保護者との連携を特に重視している。	利用開始時だけでなく保護者とは常に緊密にやり取りを行っている。さらに医療的なことは看護師が直接やり取りするなど工夫している。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		多機能型のメリットを活かしています。	令和4年度は児童発達支援利用者がいなかった(令和5年2月より利用あり)が、引き続き多機能型のメリットを活かしていきたい。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		多機能型のメリットを活かしています。	放課後等デイサービスから生活介護に移行したケースが複数ありました。また今津特別支援学校の進路指導実習も積極的に受け入れています。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		数人ですが研修を受けています。	今後も研修の機会があれば参加できるよう調整していきます。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○	昨年地域にも開放した秋祭りを実施しました。	コロナ後を見据えて今後検討していきたいです。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○		コロナ後を見据えて今後検討していきたいです。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		コミュニケーションは常日頃から心がけています。	連絡帳、配布物、電話、Line(SNS)と様々な手段でコミュニケーションをとっています。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○	保護者とともに育てている意識です。	専門的見地から助言や提案は行っていますが、ペアレント・トレーニングの手法の支援はなじまない気がします。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		主に利用開始時に行っています。	わかりやすく、必要な説明を行っているつもりですが、わからないことはいつでもお尋ねください。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		求めに応じて適切な職員が対応しています。	専門職に限らず、多様な年齢層の職員がいるのでいろいろな視点で対応できるかと思います。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○	今後の課題とっております。	令和5年に保護者会(総会・説明報告会)を検討しています。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		体制はできています。	苦情だけでなく、日常的なちょっとした不満等でも解決できるよう努力しています。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		連絡帳に加え、配布物にてお知らせはしています。	会報等は現在出していませんが、配布物に加えて連絡やり取りの中でも伝えていきます。あとインスタグラムにも力入れています。
	35	個人情報に十分注意している	○		十分注意しています。	注意漏れは随時指摘をお願いします。即対応します。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		配慮しているつもりです。	よりよくなるよう工夫していきます。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		上記にもありますが秋祭りを開催しました。	コロナの影響でなかなかできませんでしたが、昨年ようやく実施できました。今年も秋祭り開催予定です。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		まずは職員への周知を徹底します。	保護者向けには上記保護者会などで機会をつくっていきます。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		防災訓練等行っています。	訓練、研修等もより充実させていきます。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		日常的に気をつけています。	以前研修を実施しましたが定期的に行えるよう計画していきます。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		個人的な判断では行いません。必要な時は保護者や施設長も交えて話し合います。	通常よりケガなどにも配慮してケアを行っていますが、ケガ防止やむを得ないときは必ず相談いたします。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		指示書はいただいています。	他の医療的ケアの場合も医師の指示書や、保護者からの手順書をいただくことがあります。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		事例集あります。	事例集の分析も行い職員に周知しました。